一流は一流を知る

**世界最高峰の英国の二つのロイヤルバレエ団で
プリンシパルという最高位を22年間にわたって務めてきた。
世界中を魅了するテクニックと表現力。それを支えたのは、
気持ちも体も、すべてを本番の舞台のために準備しようという
プロとしての強いこだわりだった。**

感じたままに、もっと表現したい。すべては最高の舞台のために。

プロになる決断

イギリス・ロンドン。あこがれのロイヤルバレエスクールの生活が始まったのは、私が17歳の時でした。周囲に知っている人はなく、英語もほとんど話せない。引っ込み思案だった私は、誰に甘えるわけにもいかず、何から何まで自分でこなす毎日。ただ、周りの人がとても幼く見えた私を何かと面倒を見てくれたのはラッキーでした。

2004年　日本で客演した「ジゼル」にて

当初、留学は1年の予定で、1年経つころには、早く日本に帰りたいと思っていました。そんなとき、バレエ団への入団が決まり、プロのダンサーとして仕事をいただける話が舞い込みました。もう少しがんばってみようか、でも日本に帰れないのはさびしい、と迷いました。先生や両親に相談したところ「こんなチャンスはめったにないから、もう少しがんばってみなさい。それでもだめなら日本に帰ればいい」とアドバイスをもらいました。そのことを受け、プロの道へ進むことに。今思えば、あの時日本に帰らなかったことが、大きな決断でした。あれがなければ、それから後の私の人生はまったく違うものになっていました。その後数年たってから、自分の幸運をあらためて実感しました。

理想の自分に近づくために

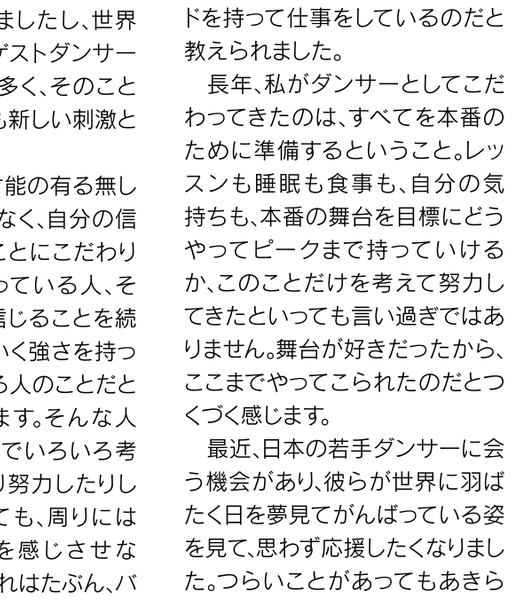
プロになってからは、思うよりも早くプリンシパルに昇格することができました。その喜びはとても大きかったのですが、その後は、その地位を維持するために、ずっしりと重いプレッシャーと戦う日々が続きました。

きちんとした舞台を務められないと観客の皆さま、そしてバレエ団の中で認めてもらえなくなります。次々と出てくる若いダンサーは皆、バレエに対しての情熱が強く、プライドも高い。チャンスがあれば誰かの役を奪ってでも踊りたい、という人もいました。そのような中にいて、最初は弱かった私も精神的にだいぶ強くなったと思います。

日ごろの体調管理も大切です。公演は、多ければ1年に50回以上あり、それを完璧にこなさなければならない。バレエでは、ときに、痛みを伴う動きで美しいラインを作らなくてはならず、体のどこかに無理が出てしまいますから、本当にケガが多いのです。今朝、あいさつした仲間が、夕方には車椅子に乗っているということも。私は、レッスンの他にもピラティスのエクササイズをしたり、バレエ団のフィジオ（治療院）で体のケアを受けたりして、体調を整えていました。

2007年　大英帝国勲章を受勲した際の一枚

バレエの大きな特徴は、アーティスティックな表現力です。バレエにはセリフがなく、体の表現だけでストーリーを伝えなければなりません。とくにイギリスでは、表現力が重視されます。そこで踊るダンサーは骨格がはっきりして動きも大きい。中には小柄なダンサーもいますが、私と違って手足が長くて顔が小さく、表情はまったく違います。そこで私は、いかに手足を長く見せるかとか、細かな角度や動きなどにこだわって研究をしました。それでも、自分が感じたままを演じようとすると、「日本人的だ」「もっともっと表現して」と指摘されることがしばしば。バレエは、踊るたびにいつも新しい課題が見つかるものです。それはプリンシパルであっても同じで、理想の自分に自分自身がなかなか追いつかないものでした。



2006年　日本で客演した「くるみ割り人形」にて

信じるものに向かって

バレエ団の中には一流のダンサーがたくさんいましたし、世界中からやってくるゲストダンサーと共演する機会も多く、そのことが私にとっていつも新しい刺激となりました。

一流の人とは、才能の有る無しだけを言うのではなく、自分の信じることにこだわりを持っている人、そして信じることを続けていく強さを持っている人のことだと思います。そんな人は、陰でいろいろ考えたり努力したりしていても、周りにはそれを感じさせない。それはたぶん、バレエに強いこだわりを持っていて、それを達成するためならどんな努力も当然のことのようにやり遂げてしまうということだと思います。

バレエはダンサーだけでなく、衣装、音楽、舞台美術などが集まって作られています。言い換えれば、プロフェッショナルとしてのプライドが集まる場です。私がイギリスに行ってまもなくのこと、少しお手伝いしようと思って無断で衣装に触ったら、衣装係の人にたいへん怒られたことがありました。「あなたはダンサーで踊るのが仕事、衣装は衣装のプロが扱うものだ」と。みんなそれぞれにプライドを持って仕事をしているのだと教えられました。

長年、私がダンサーとしてこだわってきたのは、すべてを本番のために準備するということ。レッスンも睡眠も食事も、自分の気持ちも、本番の舞台を目標にどうやってピークまで持っていけるか、このことだけを考えて努力してきたといっても言い過ぎではありません。舞台が好きだったから、ここまでやってこられたのだとつくづく感じます。

最近、日本の若手ダンサーに会う機会があり、彼らが世界に羽ばたく日を夢見てがんばっている姿を見て、思わず応援したくなりました。つらいことがあってもあきらめないで、自分の信じるものに向かって進んでほしい。一つのことを地道に続ければ、それで見えてくるものもあるはずです。しかし現実は残酷なもので、努力する人がすべて報われるわけではありません。自分が信じている道を進むことが本当によいのか、時には決断をしなければならないときもあります。自分の直感を信じて自分の進む道を見極める、これも人生で大切なことの一つだと思います。

バレリーナ
吉田 都
（よしだ・みやこ）

東京都生まれ。9歳でバレエを習い始め、1983年ローザンヌ国際バレエコンクールでローザンヌ賞受賞。英国ロイヤルバレエスクールに留学後、サドラーズウェルズ・ロイヤルバレエ団（現バーミンガム・ロイヤルバレエ団）に入団。1988年にプリンシパルに昇格し、1995年に英国ロイヤルバレエ団にプリンシパルとして移籍。2004年にユネスコ平和芸術家任命、2006年に英国批評家協会より英国最優秀女性ダンサー賞受賞、2007年に紫綬褒章受章、大英帝国勲章（OBE）受勲、2010年6月の日本公演「ロミオとジュリエット」を最後に英国ロイヤルバレエ団を退団。
現在はフリーのバレリーナとして舞台に立つ傍ら、後進の育成にも力を注いでいる。

〈お歳暮推奨品〉
自然の恵み、伝統の技、人の手で作る本物の旨さ。

全国各地への発送も承っております
お申し込みはフリーダイヤル（料金無料）をご利用ください
0120-1728-19（イナニワトーク）
■通話料無料 ■承り時間／9時～17時（日曜・祝日を除く）
FAX0120-1728-46（イナニワヨロシク）
■通話料無料 ■24時間受付

インターネットからもご購入いただけます http://www.kanbun.co.jp
●お届け先1ヵ所につき商品合計額が5,250円（税込）以上は、送料無料です。5,250円（税込）未満の場合は420円（税込）となります。
●お支払いは、郵便局・コンビニ・代引（手数料315円（税込））・クレジットカードでお願いします。（21,000円以上お買上げの場合は、代引またはクレジットカードで）
●商品のお届けはご注文受付後、通常7日前後です。着日指定も承ります。
●ご不明な点は、左記フリーダイヤルまでお気軽にお問い合わせください。
●沖縄県、離島へのお届けの場合は、離島配送料金630円（税込）を、別途加算させていただきますのでご了承ください。

▶いなにわ手綯うどん・つゆ詰め合わせ／木箱
WSA50N
〈うどん140g×7袋・ストレートつゆ295ml×2本〉
5,250円

▶いなにわ手綯うどん／木箱
WK10〈うどん200g×5袋〉
3,885円

モンド・セレクション 2011
最高金賞「ゴールドメダル」

寛文五年堂
非効率主義
寛文五年堂

秋田県湯沢市稲庭町字三嶋34　TEL0183（43）2114・FAX0183（43）2855　URL http://www.kanbun.co.jp/　ご注文専用 0120-1728-19　受付時間 9：00～17：00（月～金）

■秋田市・西武秋田店、イオン秋田中央店、他各店、藤木、秋田県産品プラザ（アトリオン地下1階）、秋田市民市場 加藤本店、石川酒店（トピコ2階）　■大館市・いとく大館ショッピングセンター、他各店　■鹿角市・関小市商店　■大仙市・タカヤナギ各店、大阪屋、停車場こまち　■横手市・イオン横手店　■由利本荘市・イオンスーパーセンター各店　■にかほ市・泉屋商店　■仙北市角館町・角館こだわり蔵　■湯沢市・小川忠太郎商店、カドヤ